

外国為替予想レポート(週刊)
Techni Hedge Forex : 14 Aug. 2006 (Mon)
Tanaka Currency Risk Management, vof.

- ドルは金曜日に急騰した。特に対円での急変が顕著だった。
- 全てのクロス円は円安中。

今週の為替市場予測、ハイライト：

ドル円・長期予想：ドル長期強気ながら不透明さを残す。.....	2
ドル円・中期予想：中期強気再確認。.....	2
ドル円・短期予想：短期強気転換。.....	3
ユーロドル・長期予想：長期売りシグナル点灯。.....	4
ユーロドル・中期予想：中期弱気中。.....	4
ドルスイス・中期予想：中期強気中。[1. 2 4 3 1]。.....	5
ユーロドル・短期予想：短期弱気転換。.....	6
ユーロ円・長期予想：長期強気中。.....	6
ユーロ円・中期予想：中期強気中。.....	7
ユーロ円・短期予想：短期弱気転換。.....	8
スイス円予想：中期強気中。.....	8
ユーロスイス予想：中期強気中。.....	9
ポンド米ドル：中期強気中。.....	10
ポンド円：中期強気有効。長期的なクライマックス開始の気配が浮上。.....	11
ユーロポンド：中期弱気有効。10月に長期大底の見通し。.....	12
豪ドル/米ドル予想：中期売りシグナル点灯。.....	13
豪ドル円：9ヶ月間の長期修正を完了して、長期買いシグナル点灯。.....	14
米ドルカナダドル：中期売りシグナル点灯。.....	15
カナダ円：中期強気に転換。.....	16

ドル円: 116.30 先週末 NY 為替市場終値

【為替市場焦点】 (本レポでは昨日とは先週金曜日、本日は週明け月曜日をさします)

『先週のドルは当初方向感が掴めず乱高下しつつレンジ幅を木曜日まで拡大。しかし金曜日には、直近レンジから抜け出して、ドル高方向に抜けて終了。決着が付かなかったのは豪ドルとカナダで、乱高下のまま旧レンジ内で終了。クロス円は、おおむね円安基調を維持したまま終了。』

中期観測は、FOMC据え置きの結果にもかかわらず、主要ドルペアは弱気では無いとの認識を強めつつある。

(なお、ブレイクアウトはストップに対する抜けを告知しており、予想レンジに対するものではありません。ご注意ください。)

ドル円・長期予想：ドル長期強気ながら不透明さを残す。

7月足はシグナル点灯なし。買いストップ117.70にタッチしたが安値寄りして引けた。

2006年6月足116.50より強気中。

8月以降の長期展開を見ないと方向性が確定できない。実質ニュートラル。

7月は6月と全く同じような市況で矛盾した兆候を残して終了した。

6月と同じく買いストップ117.70には到達したが安値寄りして引けた。

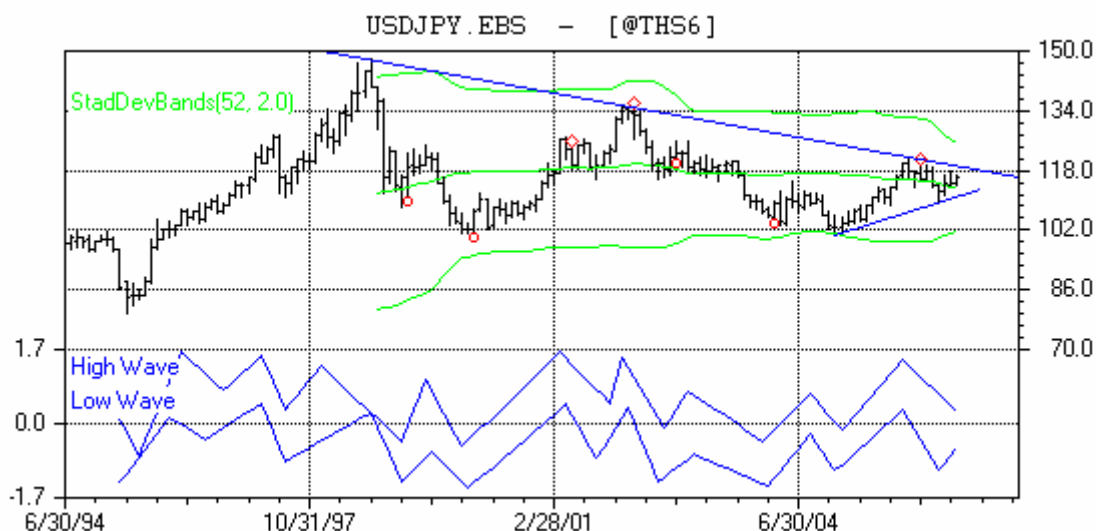
8月足で決着が付くかどうかであるが、今のところ上昇で始まっており月間初期始動レンジも高値に抜けた。初期始動レンジ高値予測値は115.65だった。今月は陰線となる可能性が減少したといえる。

月足平均レンジ幅は3円75銭を割り込んだまま半年が経過。このような現象は1996年以来10年ぶりの事である。一つにはドル円の変動そのものが長期的減少傾向にあるのだろう。

しかしある程度周期的な現象であるとする、この次に来るのは長期的大変動局面である。

8月の売りストップは111.72。標準予想レンジは112.70～117.20。

(下図ドル円の長期月足売買シグナル：)



ドル円・中期予想：中期強気再確認。

先週はシグナル点灯なし。買いブレイクアウト115.61にて発生して強気再確認。

7月14日週115.88より強気中。

ドル円は1ヶ月の中期強気中で、しかも何の収益成果も上がっていない。9週間乱高下が続いており未だに明瞭な決着は付いていない。決着が付き始めると、激しく一気に変動するだろう。

しかし短中長期それぞれに何かと強気の方が有利との兆候が見え始めており、週足も強気維持で良いだろう。

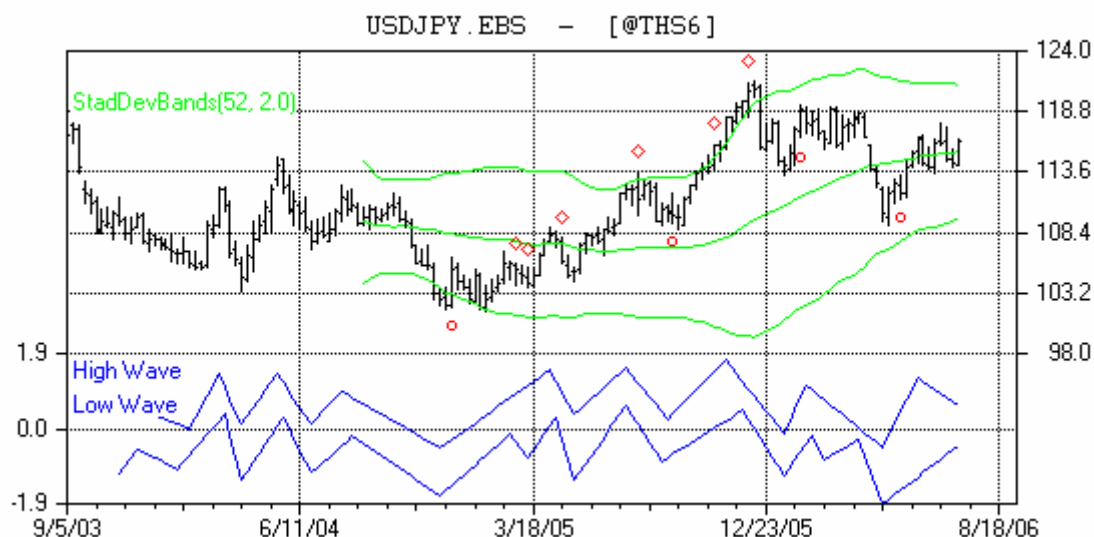
今週の売りストップは114.04。(買いストップは118.30)

標準予想レンジは115.10～117.50。

陽線予想レンジは115.80～118.15。

陰線予想レンジは114.50～116.85。

(下図ドル円中期週足売買シグナル：)



ドル円・短期予想：短期強気転換。

7月20日117.04より弱気中だったが、8月11日115.88にて強気転換。

ドル円は8月3日に買いシグナル点灯して強気周期に入ったが、他のドルペアと同じく乱高下するばかりで決着が付かなかった。金曜日には急騰して買いストップを上抜き強気を確認。

他のドルペアと同じく、少なくともあと1～2日の周期的上昇余地を残しており、目先117円手前が高値目標。

週明けから直ちに反落開始というシナリオにはならないだろう。

万一下げたとしても今週前半は115円前半までだろう。

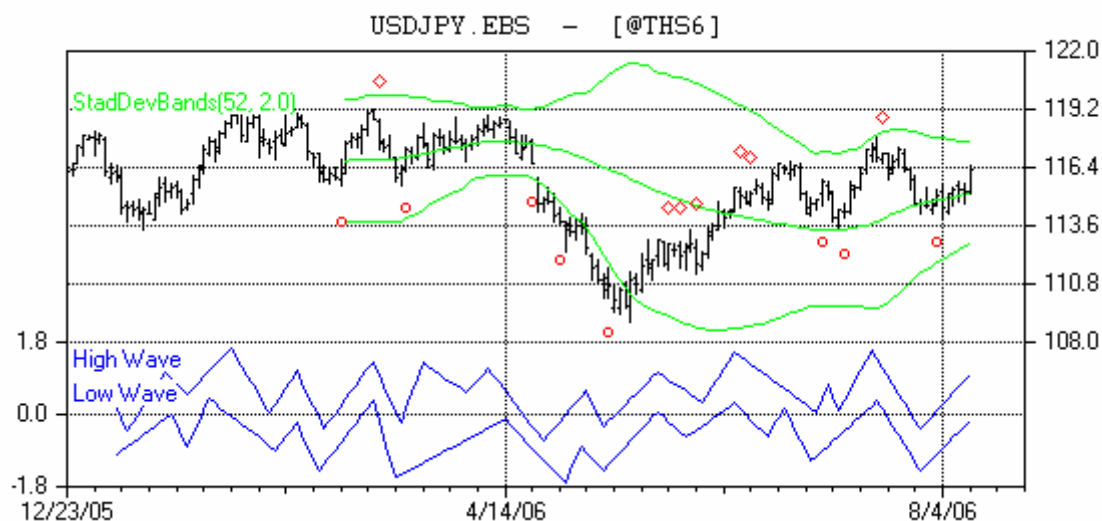
中期、長期ともに強気観測が始まったばかりであり、何かの弾みで、強気周期を延長するシナリオも保留したい。この場合は118円到達となる。

118円到達した場合には、中、長期観測にもかなりの影響が出始めるだろう。

ドル円は中長期観測が強気認識となっており、短期強気の方がしっくりするマーケットである。

明らかにクロス円と連動した円安であり、人気クロス円は金曜日、新規高値更新した。

(下図ドル円短期日足売買シグナル：)



ユーロドル: 1.2725 先週末 NY 為替市場終値

[概観]：ユーロドルは、7月足に長期売りシグナルが点灯。一方目先も短中期観測が弱気寄りになっており、全体的に弱気に有利な展開となりつつある。

ユーロドル・長期予想：長期売りシグナル点灯。

7月は長期売りシグナルが1.2765にて点灯した。一時売りストップ1.2510にも到達する局面があった。6月1.2542より長期弱気転換中。

ユーロドル7月足は長期周期の分岐路を形成し、長期売りシグナルが点灯した。6月には売りストップで長期弱気転換。7月の売りシグナル点灯で長期弱気の確信度は高まった。

一方、逆の兆候も出ている。

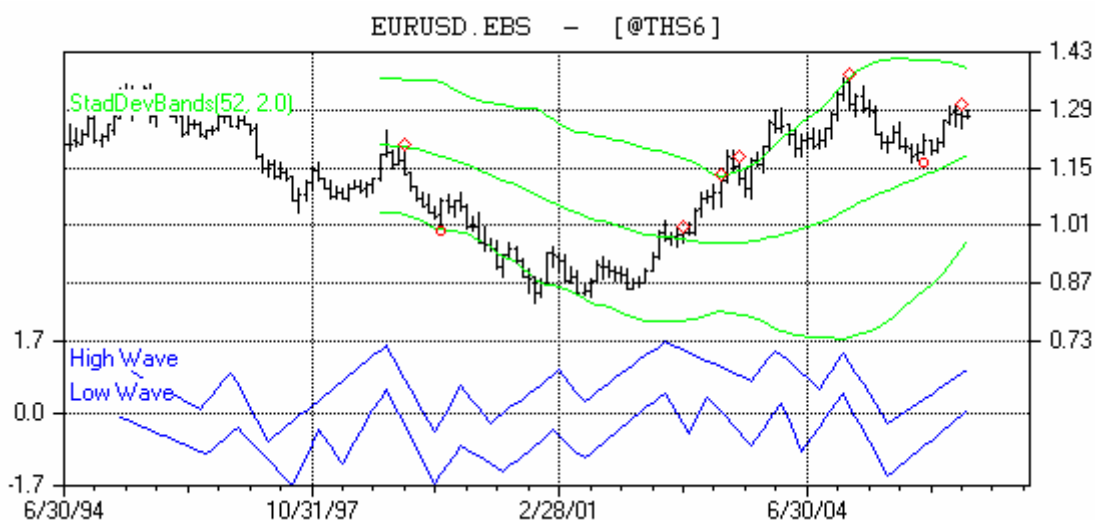
6月もそうだったが、7月も高値引けとなった。2ヶ月連続の「安値に行って来い」。

5月から連続で1.28近辺に戻して引けるというのも偶然にしては出来すぎており、1.28は収束領域なのだろう。

8月は2週間経過してFOMCも後にしたというのに極小レンジに留まったままである。

8月の買いストップは1.3089。標準予想レンジは1.2500～1.2990。

(下図長期月足売買シグナル)



ユーロドル・中期予想：中期弱気中。

先週はシグナル点灯なし。ブレイクアウトなし。

7月21日週1.2548より弱気転換試行中。乃至はニュートラル。

ユーロドルはチャート上の重要節目1.29をFOMC後も切り上げることが出来ず、先週反落した。しかしレンジ志向が強くなっており、売りストップは数ピップの差で到達できなかった。弱気乃至はニュートラルの認識であるが、今週は、先週金曜日の気配から続落との見通しで始めたい。

1.26程度なら想定レンジ内なので今週中に試しに行く可能性が高い。楽観的弱気で1.25までは見込める。それでも想定レンジ内。

1.26～25まで行ってやっと上下3回の限界試行を完了。その直後に本格ブレイクになるというのが

筆者の経験則である。8月の終わりから9月に掛けてそれは発生するだろうし、おそらく大型のブレイク相場となる見込みである。

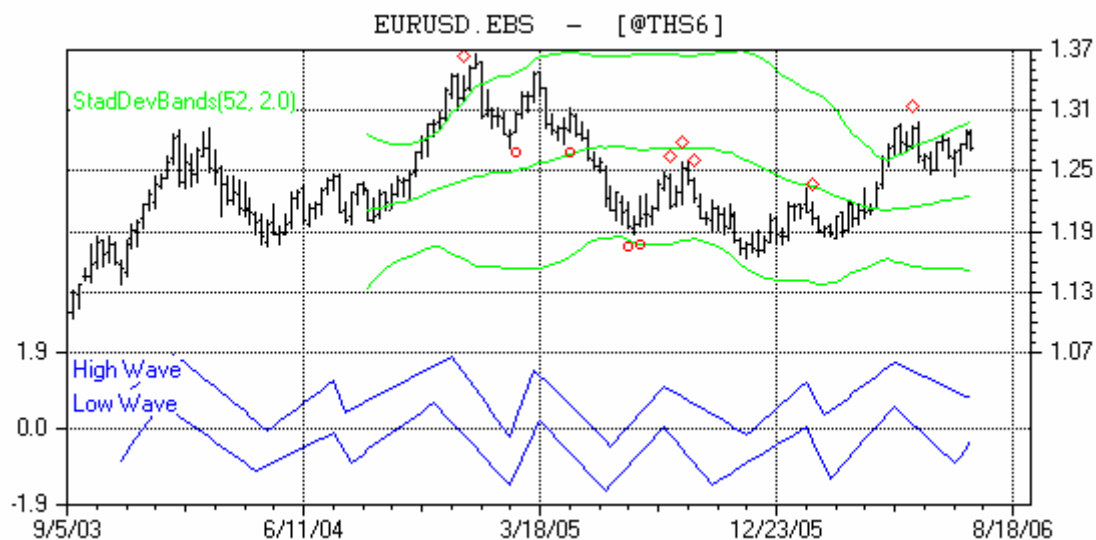
今週の買いストップは1.2922。(売りストップは1.2567)

標準予想レンジは1.2620～1.2855。

陽線予想レンジは1.2680～1.2915。

陰線予想レンジは1.2540～1.2770。

(下図中期週足売買シグナル)

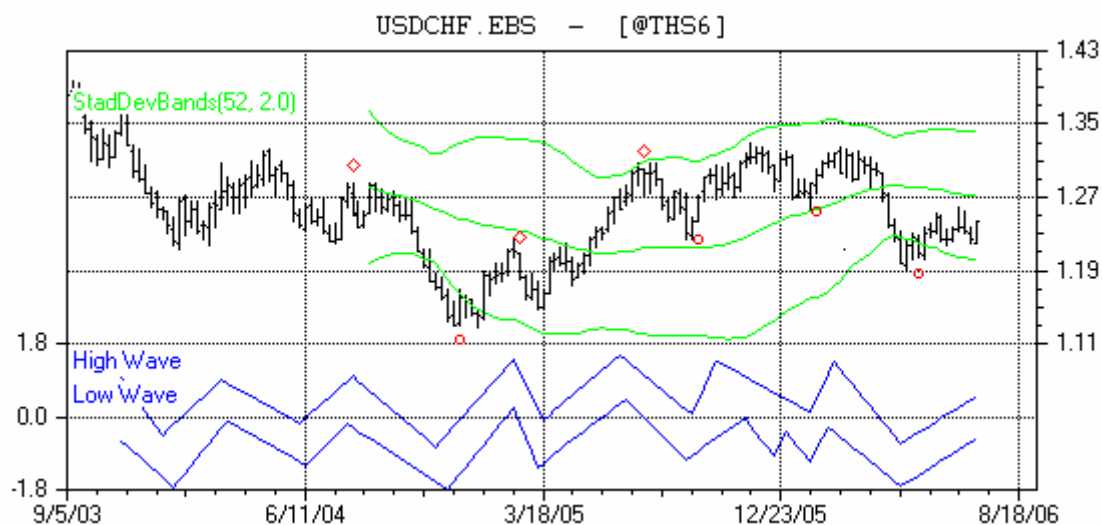


ドルスイス・中期予想：中期強気中。[1. 2 4 3 1]。

ドルスイス中期週足は、先週上昇して直近レンジ 1.22～1.26 の中央まで戻した。中期週足には明瞭な方向性が出ていないが、短期日足には目先強気傾向が浮上中。FOMC が金利据え置きしたにもかかわらず、1.24 まで上昇したことに着目したい。ロングおよび強気センチメント有効と見る。

今週の売りストップは 1.2180。標準予想レンジは 1.2295～1.2550。

(下図ドルスイス中期週足売買シグナル：)



ユーロドル・短期予想：短期弱気転換。

8月4日1.2867より強気中だったが、8月10日1.2759にて弱気転換した。

昨日は小規模ながらやっとレンジ離脱。今週はユーロ安のポテンシャルを探る展開となる。

1.26程度が妥当な安値目標。勢い付けば、1.25までというのが楽観的弱気予想である。

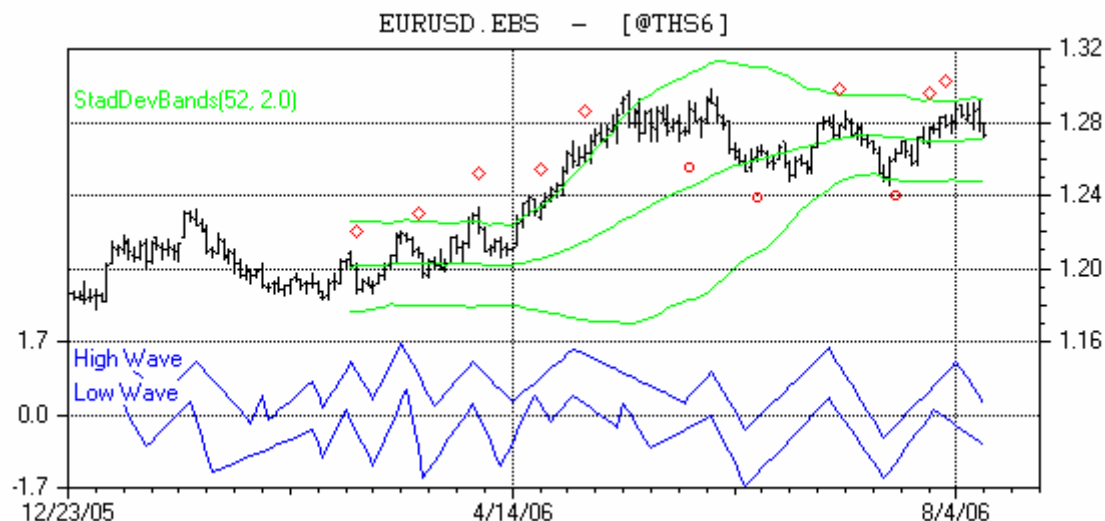
弱きにとって最悪のシナリオは1.27近辺でしっかりサポートされた場合。この場合は、今年5月いっぱい継続した大乱高下のような、たちの悪い横ばい市場が8月いっぱい続くことになる。

ユーロ弱気は、ロジックが全く無いわけでもなく、ユーロ引き締め傾向は完全に織り込まれているが、FED金融政策見送りは織り込まれたものの、利下げが視野にあるわけではなく、それよりも年末から来年初頭に掛けて再引き締めのシナリオが標準的市場コンセンサス。

そうなるとユーロ引き締め見通しが安定していても、米金利が引き締め思惑で、ドルは買戻しリスクが高まるというロジックとなる。

差し当たり中長期のヘッジ売りには良いタイミングと水準であると見込む。

(下図ユーロドル短期日足売買シグナル：)



ユーロ円: 147.99 週末 NY 為替市場終値

[概観] ユーロ円は数ヶ月以内に長期天井を付ける可能性が浮上中。まだ過熱状況ではない。

ユーロ円・長期予想：長期強気中。

7月はシグナル点灯なし。ブレークアウトなし。

2005年7月136.40円より長期強気中。

ユーロ円は恐らく長期周期的な大天井ゴールインを目指して上昇中である。クライマックス的な急騰局面を予想しているがその根拠は二つある。

一つは異様なほどに長かったジリ高横ばいパターン。

もう一つは10年来の超極小月足レンジ幅。

直近平均は5円を割り込んでおり10年来の出来事。その直後にレンジ幅は爆発的に増加し98年には平均9.50円と二倍の規模に膨らんだ。

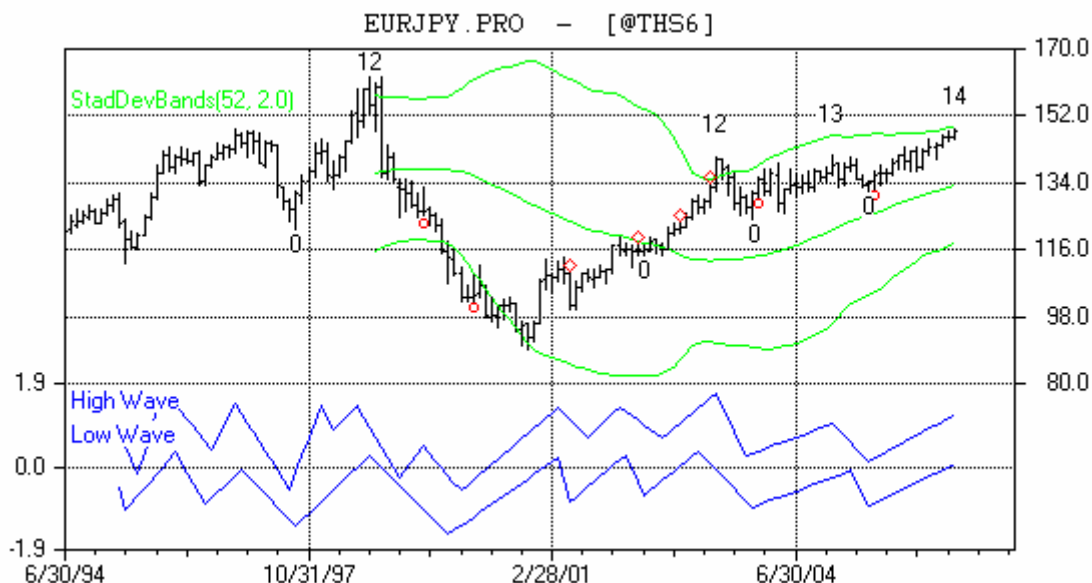
実は2002年末にも一時平均5円を割り込んだことがあるが、その後はやはり2003年5月の9円レンジ暴騰まで急騰相場が後続している。

テクニヘッジが計測するユーロ円の長期強気波動は直近3例が12ヶ月から13ヶ月。今回はボラティ

リティアーが低く、その分延長しやすく、現在14ヶ月目である。長期天井は1～2ヶ月内程度に接近中との認識を強めている。（下図参照）

8月の売りストップは144.05。 標準予想レンジは143.90～148.80。

（下図ユーロ円長期月足売買シグナル）



ユーロ円・中期予想：中期強気中。

先週はシグナル点灯なし。ブレイクアウト無し。

6月2日週 144.40 より中期強気中。

ユーロ円週足は安定ジリ高相場。周期性は後退。レンジボラティリティーも低下しており、週足平均レンジ幅はついに2円を割り込んだ。ここ数年間一度も到達しなかった低水準である。これまでの最低値は2円だった。

これが何を意味するかというと、おそらく思いがけない突然の市場急変。どちらの方向にと問うと、上昇方向だろう。ファイナルステージは接近中。

今週の陽線予想高値は149.50である。これを超えるとクライマックスの始まりと見做したい。

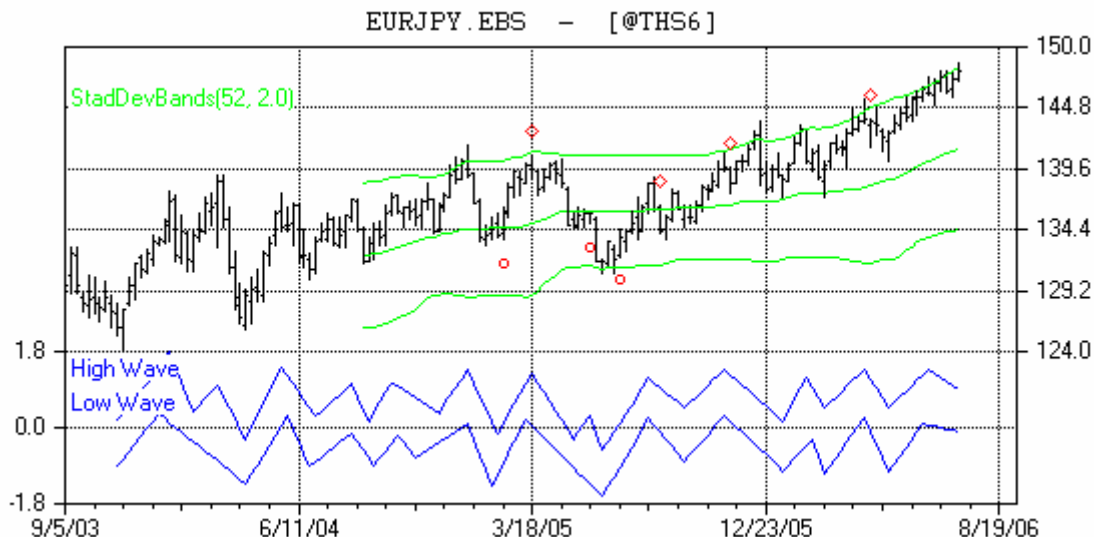
今週の売りストップは146.07。（買ストップは149.01）

標準予想レンジは147.05～149.15。

陽線予想レンジは147.45～149.50。

陰線予想レンジは146.45～148.55。

（下図ユーロ円中期週足売買シグナル：）



ユーロ円・短期予想：短期弱気転換。

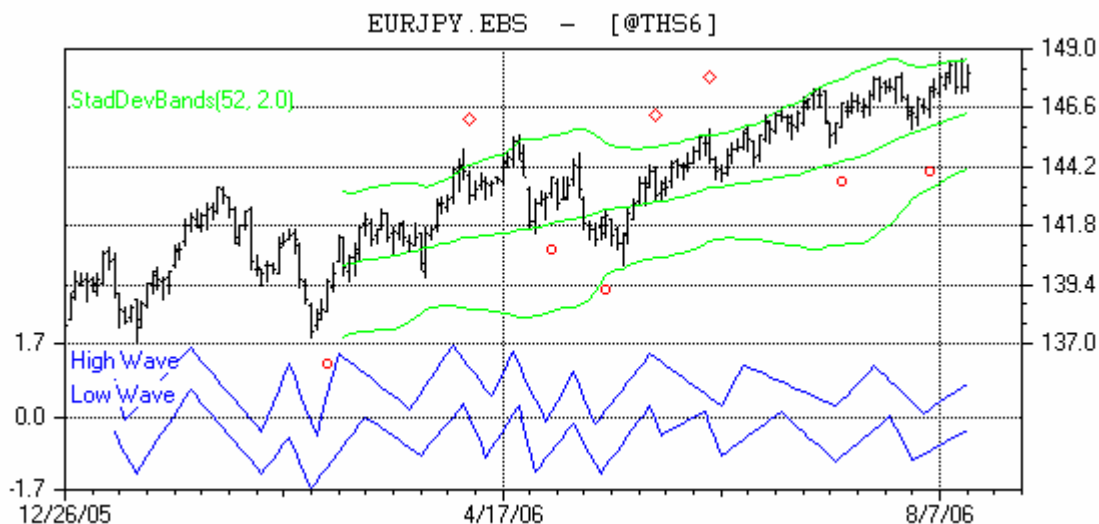
7月12日146.76より強気中だったが8月10日147.52にて弱気転換。

ユーロ円は昨日高値に戻したものの反転認識には至らず、短期弱気で終了。
短期周期的見地から本格上昇にはやや早すぎると観測している。
全てのクロス円中、欧州通貨クロスはポンド以外低調である。

直近の先導役だったポンド円から、豪ドル円やカナダ円に人気循環が移行中との認識である。
ユーロ円は模様眺め。大天井を今つけているとの兆候はなく、そのようには認識していない。

ショートのまま様子見。

(下図ユーロ円短期日足売買シグナル：)



スイス円: 93.60 先週末 NY 為替市場終値

スイス円予想：中期強気中。

スイス円は他のクロス円に遅れを取っているが、目先のチャンネル目標には到達した(下図週足青色短線参照)。この先は、2003年に発生したような過度な吹き上げクライマックスを経由した後、天井を付けるような展開となるのではないかと推測している。まだ数ヶ月はかかりそうである。高値の長期目標は96円から97円程度と推測。スイス円自体には主導性は無く、他のクロス円に追随連動

する円安スイス高となる見込み。

(下図スイス円中期週足売買シグナル：)



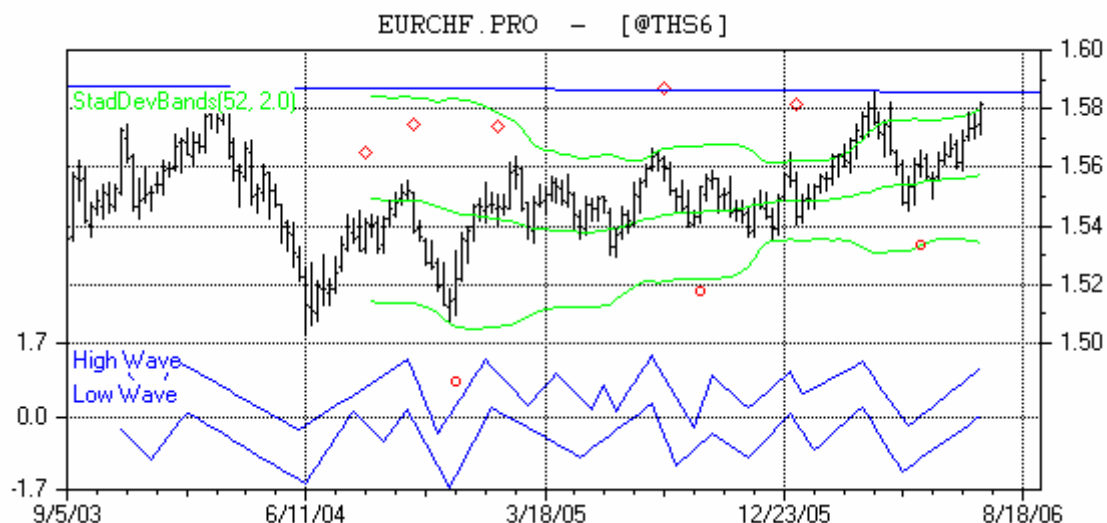
ユーロスイス: **1.5815** 先週末 NY 為替市場終値

ユーロスイス予想：中期強気中。

ユーロスイスは長期が、ややジリ高傾向の横ばい、中期は3ヶ月間強気中である。先週は際立ったユーロ高スイス安が再浮上。1.58 台でチャート上と中期周期がピークアウト。もしもその水準を切り上げると1.59 台もしくは1.60 に接近する急騰場面が出現するだろう。

2000年4月以降、1.58 台に到達したことは2度あったが、1.59 台には一度も到達したことが無い。ユーロスイスの関係に歴史的な変化が出現すると認識できない限りは、1.58 から1.59 に掛けては長期の売りヘッジを掛けるということになる。

(下図ユーロスイス中期週足売買シグナル：)



ポンド米ドル: **1.8898** 先週末 NY 為替市場終値

ポンド米ドル：中期強気中。

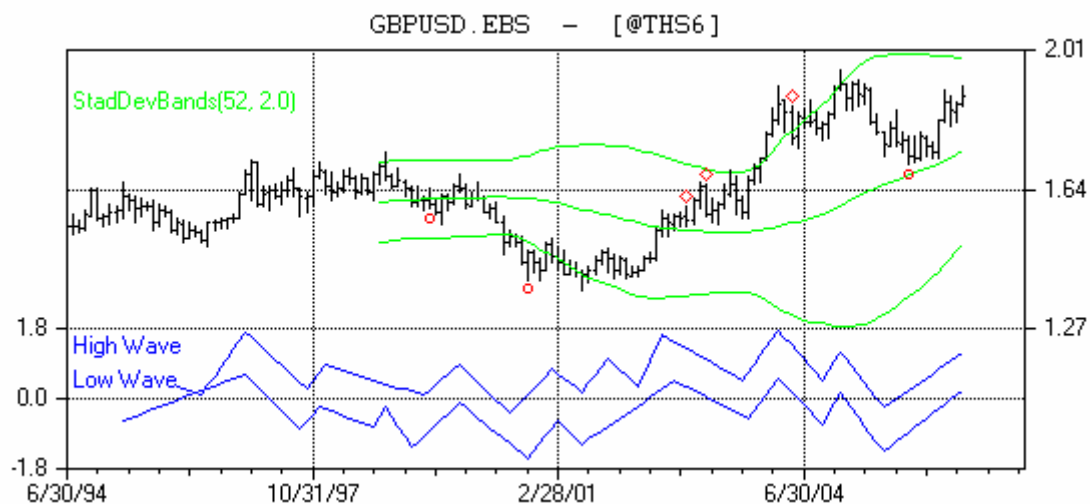
ケーブルは全クロスがポンド強気中で、中期的に最低 1.94 程度までは行きそうなチャートパターンであるが、目先はドル全面的に強気となりやすく、ケーブルも要注意である。

対米で金利格差が広がりそうな確信が強まった唯一の通貨なので、独自の人気通貨となっているが、中期周期の高値分岐点に到達しており、中期売りシグナルもこれ以上の下落では点灯しやすい。投機的ロング持ち高は記録的な高水準に到達している。上げるのも下げるのも激しい動きを見せる通貨なので振り落としも、予想外の強烈なものとなるかもしれない。

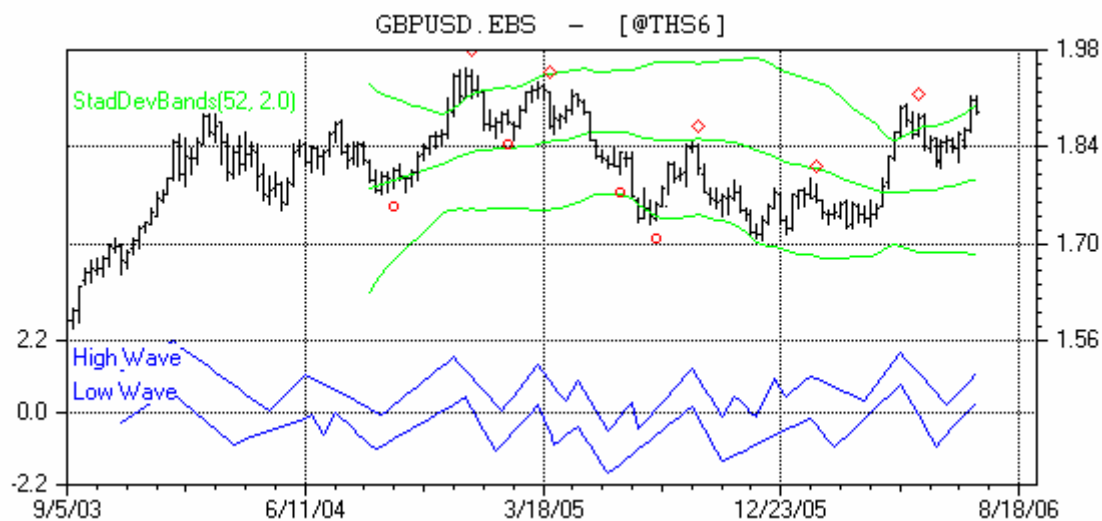
下図月足では、その際は 2 ドルまで行くとの見通しを示唆。したがってセルオフの直後は買い興味が浮上して、いったんしっかり支えられるだろう。

今週の売りストップは 1.8638。 標準予想レンジは 1.8740~1.9110。

(下図ポンドドル長期月足売買シグナル：)



(下図ポンドドル中期週足売買シグナル：)



ポンド円: **219.77** 先週末 NY 為替市場終値

ポンド円：中期強気有効。長期的なクライマックス開始の気配が浮上。

ポンド円は長期的な上昇クライマックス開始の気配が台頭中である。ユーロ円ではなくポンド円にそれが発生して全てのクロス円を主導している点で、最も注目すべきクロスである。

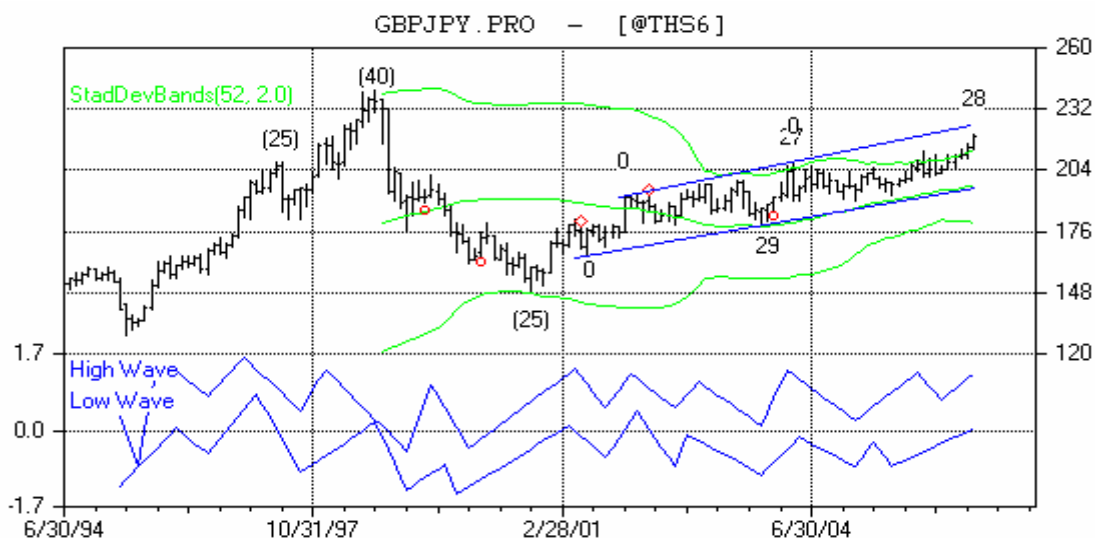
ポンド円はダイナミックな周期マーケットとは言いがたい。レンジ・ボラティリティーの低下とジリ高横ばいの傾向が支配的である。しかしながら直近体験では1長期周期の日柄が27ヶ月から28ヶ月となっており、現局面が28ヶ月目に相当する(下図月足参照)。長期ボラティリティーがこの間さらに低下している事から、次の周期長期天井は先延ばし傾向となるはずである。

テクニヘッジは周期を日柄で単純予測する方式を古いやり方であると見做しており、価格変動率*時間の経過*ボラティリティーの3要素を計算する。つまりボラティリティーが重要な変数であり、その低下は周期の延長予想に繋がる。

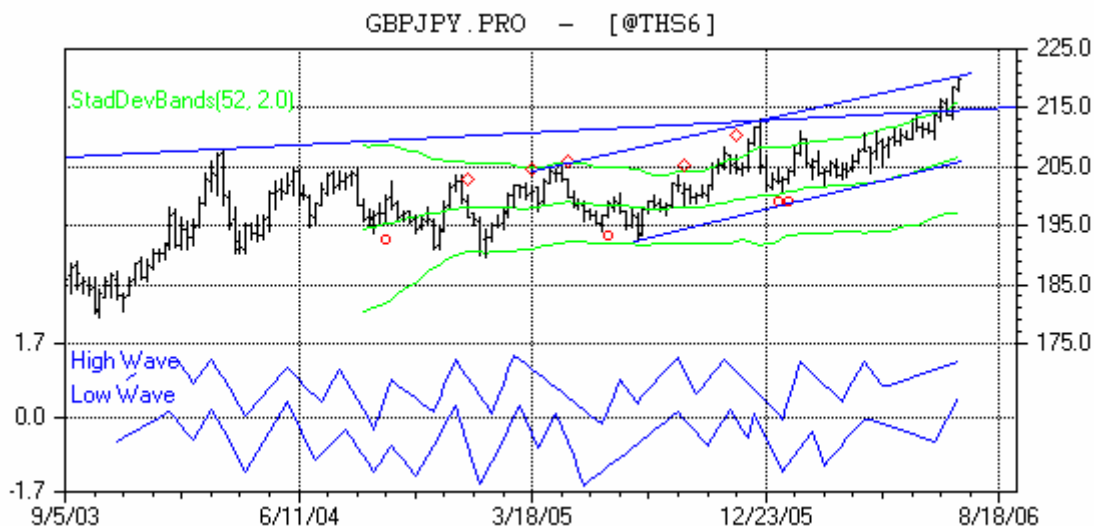
ちなみに周期とは天井から天井、底から底までを1周期とするが、90年末期から2000年度までは1波動(=底から天井)が25ヶ月程度だった。当時観測された周期は65ヶ月だった(下図(40)+(25))。当時と今ではボラティリティーが半分以下に減少していることから、現時の1波動が65ヶ月以上であったとしてもおかしくはない。2000年9月の長期大底から数えて現時71ヶ月の長期強気波動中である。

月足の長期目標は225円(下図月足参照)。目先の目標は下図週足で見ると220円だったが、先週到達した(下図週足参照)。

(下図ポンド円長期月足売買シグナル：)



(下図ポンド円中期週足売買シグナル：)



(下図ポンド円短期日足売買シグナル：)



ユーロポンド: **0.6736** 先週末 NY 為替市場終値

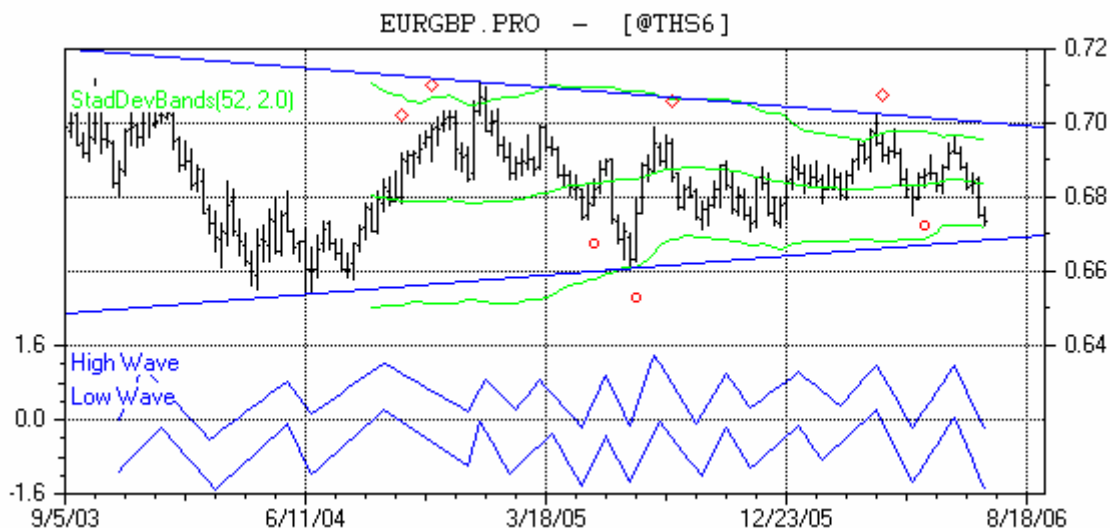
ユーロポンド：中期弱気有効。10月に長期大底の見通し。

ユーロポンドは、先週、年初来安値を更新。中期は弱気中で、0.67 程度のスイング安値目標に向かって下落中。0.67 到達は 8 月後半と予測中。

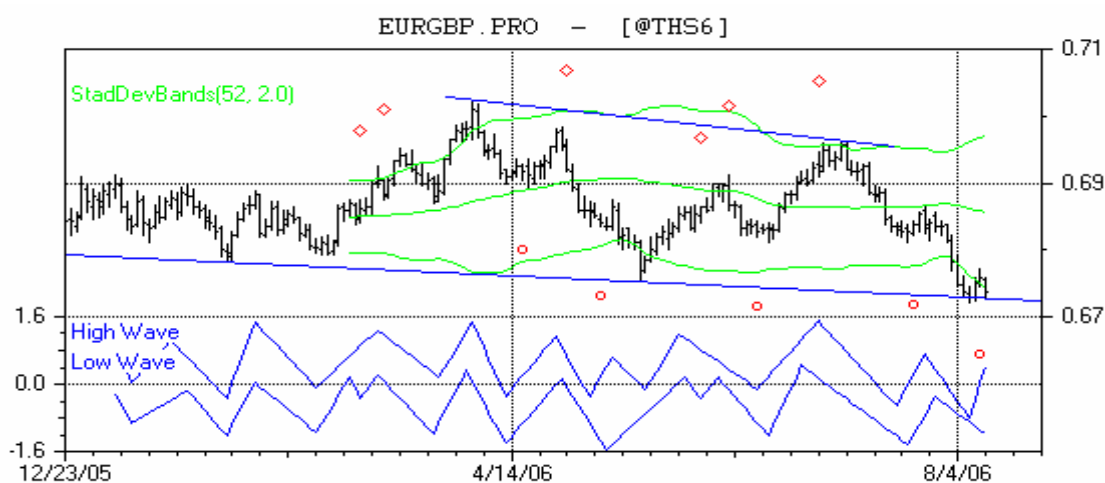
長期大底をつける第一候補月は 10 月。まだ 2 ヶ月の下落余地が残っており、0.67 をブレイクダウンすると、容易に、次の節目 0.66 まで下げていくと見込む。

目先は短期周期底をつけており、買戻しもあり得る。しかし周期分岐点を形成することで、次の下落局面では、フルスイングの下落で目標に突進するだろう。

(下図ユーロポンド中期週足売買シグナル：)



(下図ユーロポンド短期日足売買シグナル：)



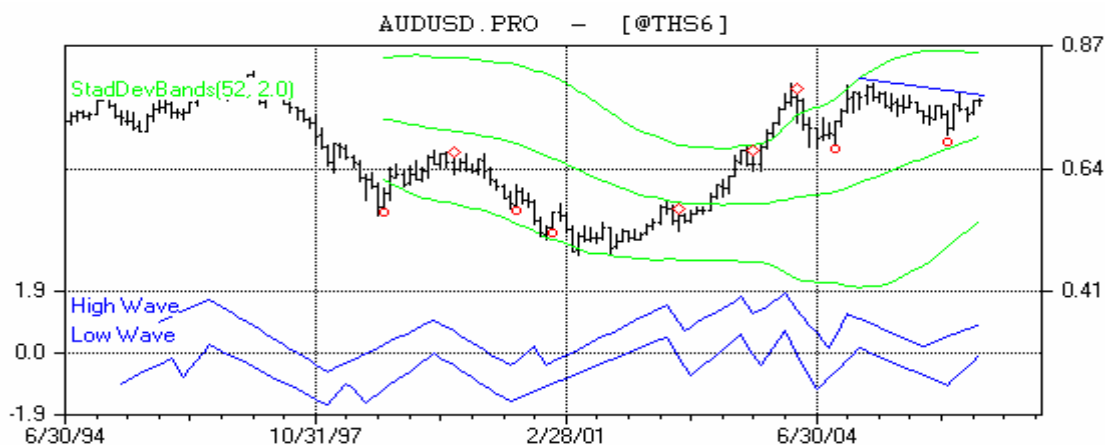
豪ドル/米ドル: 0.7667 先週末 NY 為替市場終値

豪ドル/米ドル予想：中期売りシグナル点灯。

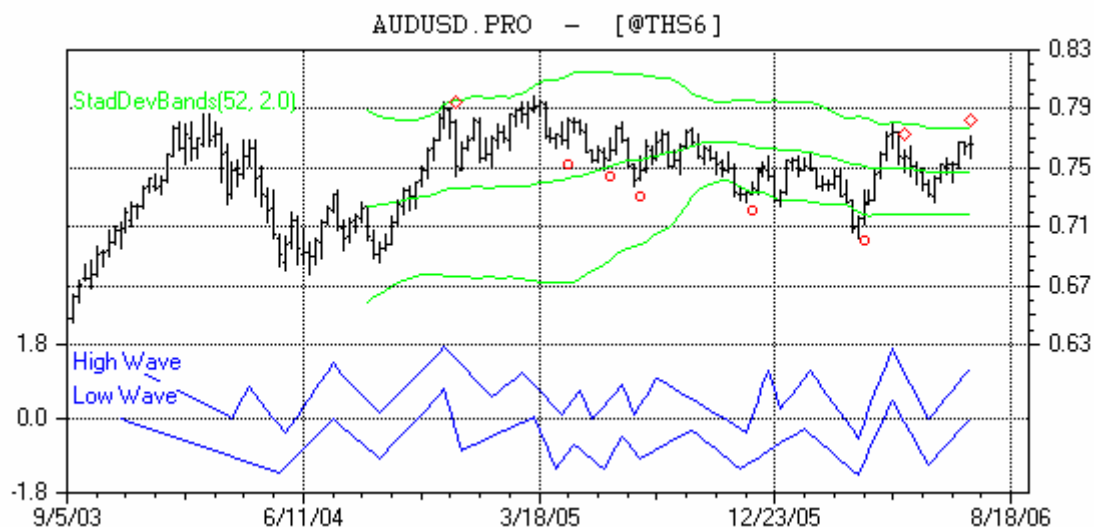
豪ドルは長期強気中であるが、先週、中期週足に売りシグナル点灯した。ここからは下げても 0.75 まで、切り上げていけば 0.80 到達の分岐点である。ロングは売りストップで防御しておくべきだろう。

今週の売りストップは 0.7560。標準予想レンジは 0.7580~0.7750。

(下図豪ドル米ドル長期月足売買シグナル)



(下図豪ドル米ドル中期週足売買シグナル)



豪ドル円: **89.06** 先週末 NY 為替市場終値

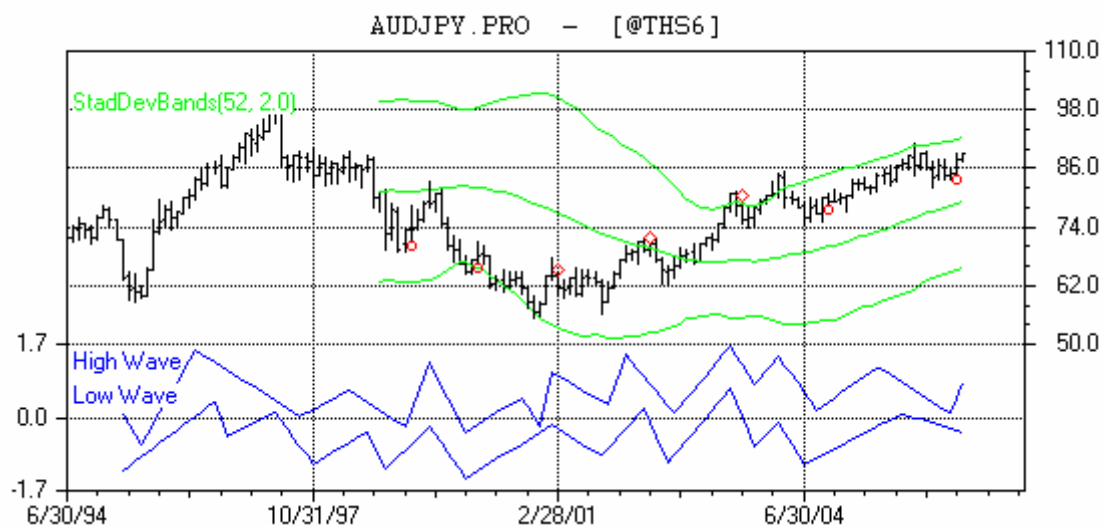
豪ドル円: 9ヶ月間の長期修正を完了して、長期買いシグナル点灯。

豪ドル円7月足に注目すべき長期買いシグナルが点灯した(下図月足参照)。しかし先週は、全面円安再浮上の流れに乗り、豪ドル円は日足、週足共に非常に良い強気のパターンが出現中。9年来高値への新規高値更新見通しが強まりつつある。

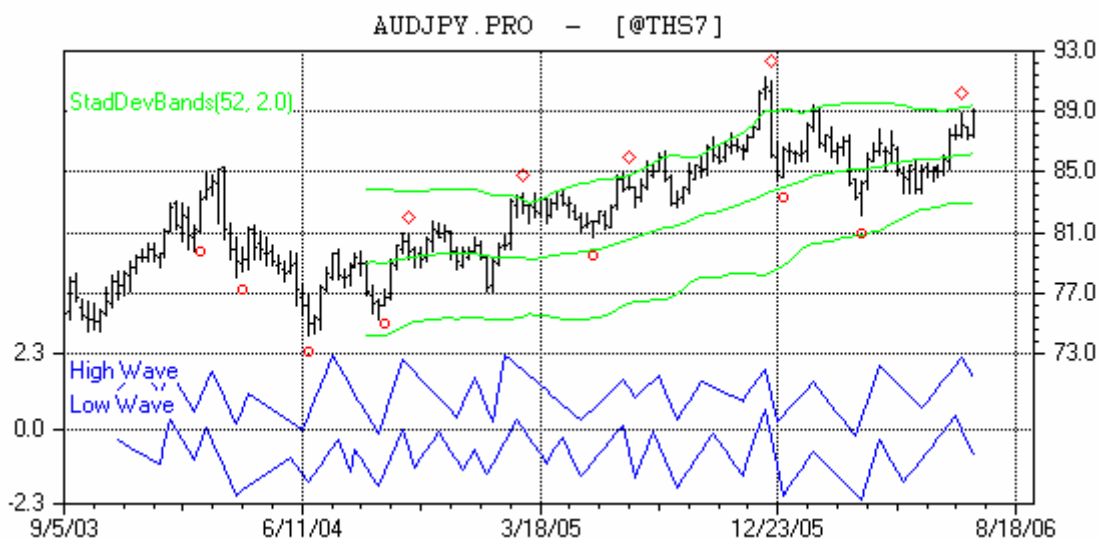
89円の節目には到達。次の節目は91円(最高値水準)である。

今週の売りストップは87.24円。

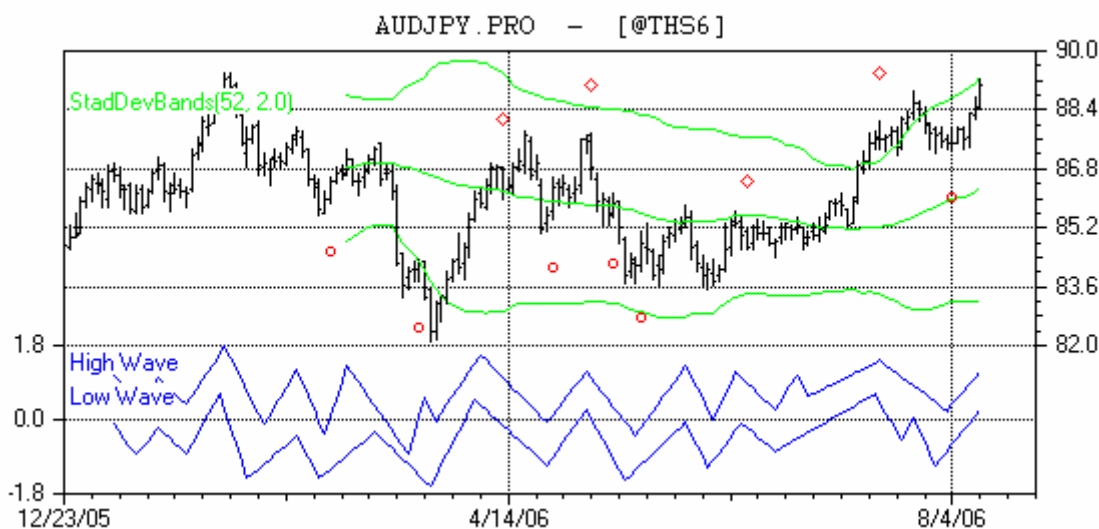
(下図豪州ドル/円長期月足売買シグナル:)



(下図豪州ドル/円中期週足売買シグナル (THS7) :)



(下図豪州ドル/円短期日足売買シグナル :)



米ドルカナダドル: **1.1235** 先週末 NY 為替市場終値

米ドルカナダドル: 中期売りシグナル点灯。

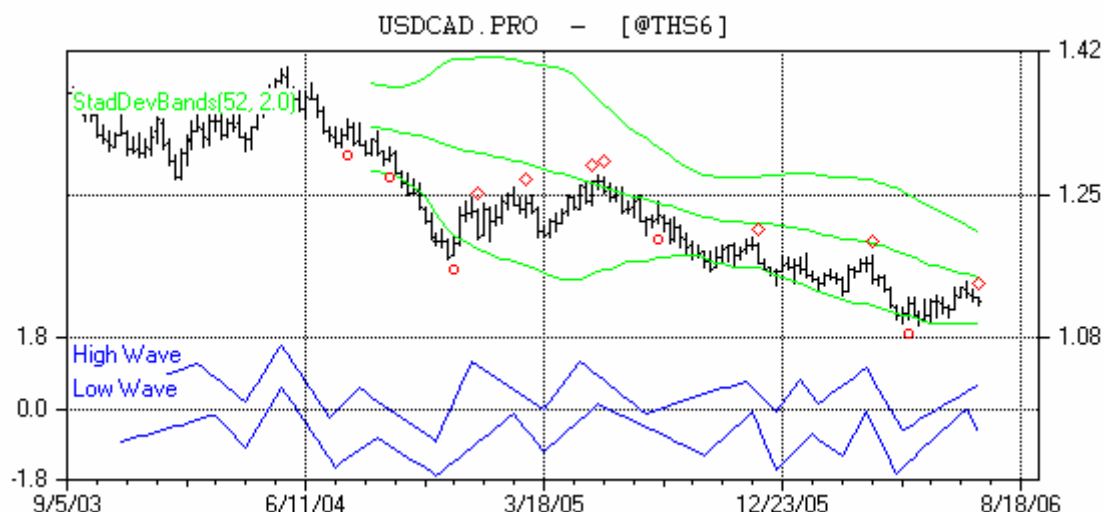
ドルカナダは中期下落の波に乗り始めたようだ。既に 3 週連続の前週比安値引けであるが、先週は中期売りシグナルが点灯した (下図週足参照)。

日足が激しく揉み合っており、直ちに急落というような筋書きではないが、ここから戻しても 1.13 台まで、下落すれば 1.11 にはすぐに到達するだろう。

今月いっぱいはいはドル安カナダ高だろう。

今週の買いストップは 1.1354。 標準予想レンジは 1.1120~1.1325。

(下図米ドルカナダドル中期週足売買シグナル：)



カナダ円: 103.48 先週末 NY 為替市場終値

カナダ円：中期強気に転換。

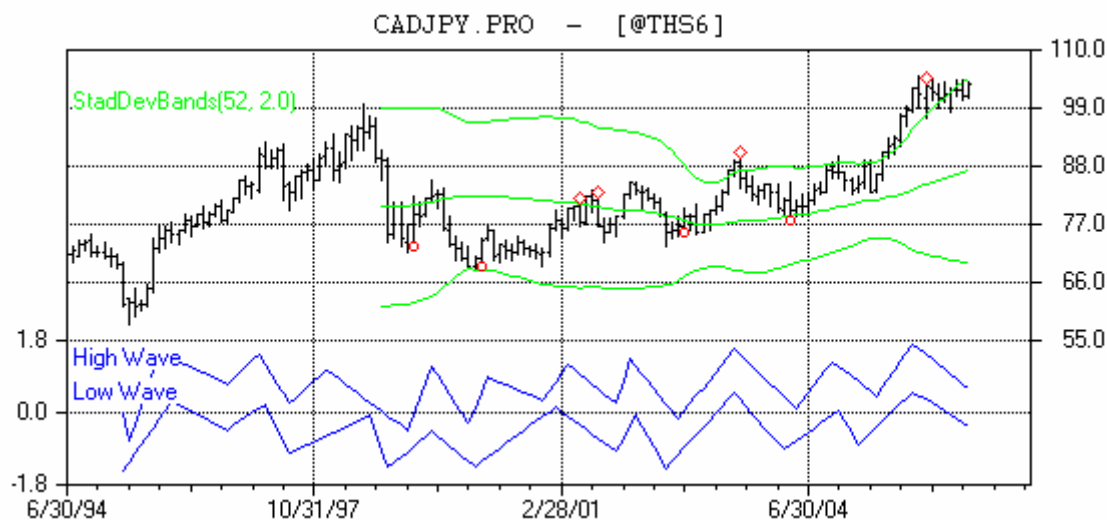
カナダ円は最高水準での9ヶ月間横ばいである。これは大変に珍しいチャートパターンで、ストレートのドル主要ペアにはあまり現れない(下図月足と週足を参照)。テクニヘッジはこの横ばいを修正的弱気周期と分類し、順序として次は長期強気周期であると期待する。期待が満たされるとこの先急騰局面が期待できる。満たされない場合は失望相場急落ということで、カナダ円は単純な二者択一市場である。どちらも長期ポテンシャルは大きいと予想する。

カナダ円は横ばいから脱出するタイミングが接近中かもしれない。週足は買いストップ102.70を大幅に切り上げて強気転換した。

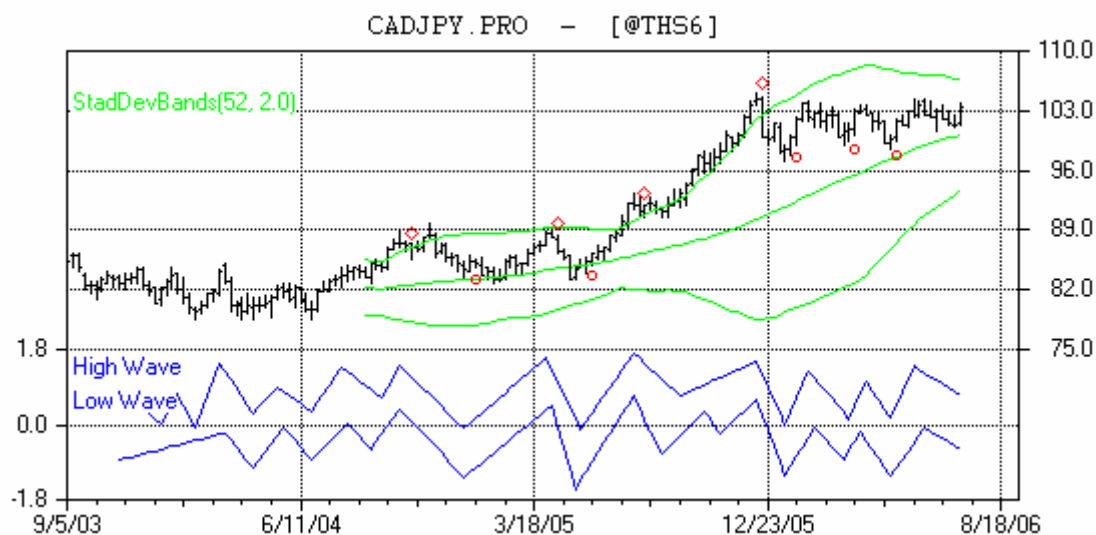
日足にも顕著な強気パターンが出現した(下図日足参照)。弱気短期トレンドラインを切り上げたこと。周期的な売りシグナルを切り返して、フルスイングの短期強気トレンド発生の兆候を見せ始めたことである。104円半ばはほぼ確実。楽観的予測なら106円台が視野に。

今週の売りストップは101.22円。

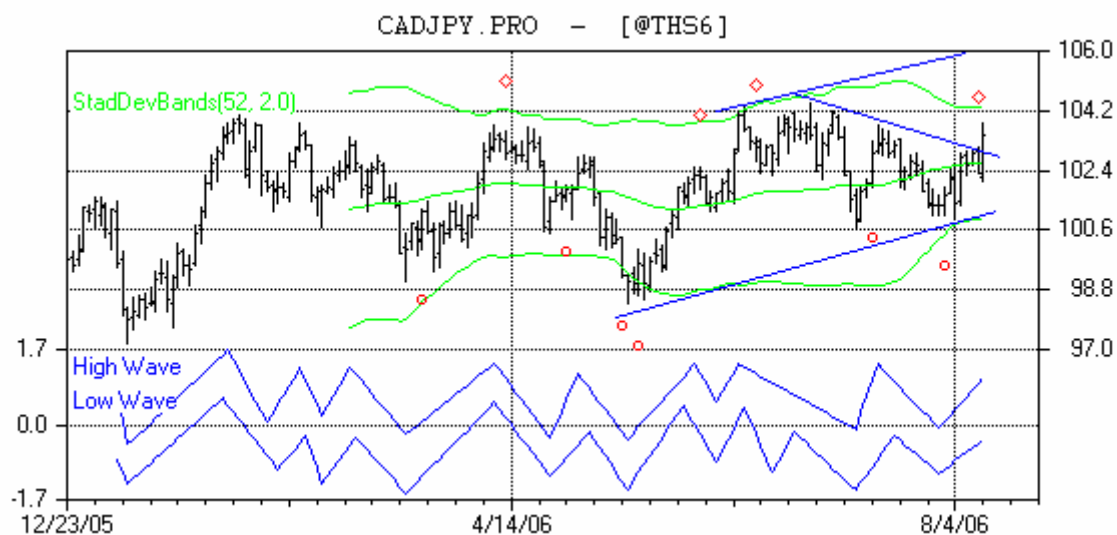
(下図カナダ円長期月足売買シグナル)



(下図カナダ円中期週足売買シグナル)



(下図カナダ円短期日足売買シグナル)



外国為替予想・分析テクニヘッジ・レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものです。売買の最終決定は、読者ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、テクニヘッジ・レポートのいかなる部分も一切の権利は TANAKA CRM社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で引用、複製または転送などを行うことを法律にて禁じられています。

△ Tanaka CRM,v.o.f., The Netherlands
▼ Currency Risk Management